

令和4年8月17日

草津市議会議長 伊吹 達郎 様

文教厚生常任委員会
委員長 小野 元嗣

令和4年度文教厚生常任委員会研修結果報告書
標題の研修結果は、下記のとおりでありましたので報告いたします。

記

1. 期 間 令和4年8月5日（金）
2. 日 程 8月5日（金） **奈良県奈良市**
午後1時30分から午後3時まで
・「生涯学習社会の実現～持続可能なまちづくり～」について
3. 参加者 委員8人、執行部職員1人、議会事務局職員1人
委員長 小野 元嗣 副委員長 田中 香治
委 員 石本 恵津子 遠藤 覚 山元 宏和
土肥 浩資 藤井 三恵子 中嶋 昭雄
＜同行＞ 教育委員会事務局教育部副部長（学校教育担当） 上原 忠士
＜随行＞ 議会事務局 伊藤 健太
4. その他 詳細は別紙復命書のとおり

令和4年度文教厚生常任委員会研修復命書

令和4年8月17日

草津市議会議長 伊吹 達郎 様

草津市議会文教厚生常任委員会
委員長 小野 元嗣

標題の研修結果は、下記のとおりでしたので復命いたします。

記

1. 出張の目的

草津市議会文教厚生常任委員会研修

2. 出張先

奈良県奈良市

3. 出張の経過

- 令和4年8月5日（金） 13:30～15:00 奈良県奈良市
○「生涯学習社会の実現～持続可能なまちづくり～」について

4. 研修出席委員名

（委員長）小野 元嗣 （副委員長）田中 香治
（委員）石本 恵津子 遠藤 覚 山元 宏和
土肥 浩資 藤井 三恵子 中嶋 昭雄

5. 執行部同行者・随行者

教育委員会事務局教育部副部長（学校教育担当） 上原 忠士
議会事務局 伊藤 健太

奈良県奈良市の概況

人口等	352,375人 / 166,703世帯(令和4年7月1日現在)
面積	276.94 km ²
概要	・710年に平城京に都が遷され天平文化が華開き、その後は東大寺、興福寺などの門前町として栄えた。 ・社寺仏閣や奈良公園、平城京跡をはじめ、社寺の伝統行事、伝統芸能、伝統産業など多くの歴史的文化遺産を有し、世界遺産に登録された国際的な文化観光都市として発展。

◎ 「生涯学習社会の実現～持続可能なまちづくり～」について

市議会：議会事務局議会総務課議会広報係 小川書記

説明者：教育部地域教育課 細川課長、植田課長補佐

教育部地域教育課総務係 井ノ口係長、尾上主事

地域学校連携係 堀田係長、渡邊地域学校連携推進委員

1. 奈良市社会教育推進計画について

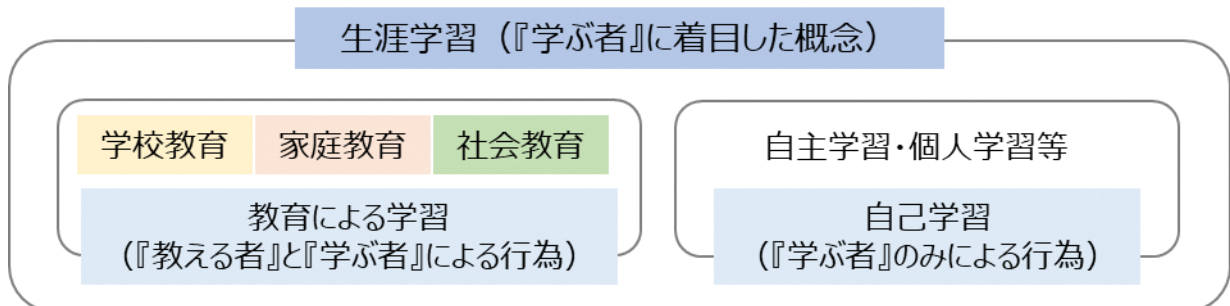
(1) 計画策定の背景と目的

- ・生涯学習の推進のため「奈良市社会教育推進計画」を策定。(平成29年9月)

⇒計画期間を過ぎることから、教育関連法の改正や社会環境の変化に対応した新たな「奈良市社会教育推進計画」を策定。(令和3年10月)

- ・生涯学習の定義は「各個人が自発的意思に基づいて行うことを基本とし、手段についても必要に応じて、可能な限り自己に適した手段及び方法を自ら選びながら行うもの」とされており、具体的には、市民一人ひとりが、日常生活を高めたり、スキルアップやキャリアアップなどにより職業上の能力を向上させたり、人生を豊かなものにすることを目的に、自分自身に適した手段や方法で、生涯を通して自主的・自発的に行う学習活動、文化活動、ボランティア活動や地域活動をいう。

また、生涯学習は学校教育、家庭教育、社会教育以外にも、個人の自由な学習などを含む人間生活に関わるあらゆる領域での学びを表す。



(2) 計画の基本目標

基本目標：生涯学習社会の実現～持続可能なまちづくり～

⇒市民が、誰でも、いつでも、どこでも学ぶことができ、その学びを通して、一人ひとりの充実した人生を主体的に切り拓くことができること、また、人々がつながりを持ち、地域課題の解決に取り組むなどの地域ぐるみの学習活動が、地域の活性化や豊かなまちづくりにつながる。そのような持続可能な「まち」を目指す。

基本方針①

学びを通して自己実現を図るとともに、住民同士のつながりを生み出し、奈良を愛し、地域社会に参画している市民を増やす。

基本方針②

地域ぐるみの学習が継続的に活発に行われ、「いつでも・どこでも・だれでも」学べるまちを目指す。

2つの基本方針に基づき以下の3本柱を施策の方向性として進める。

まなぶ

～生涯学習活動の推進～

- 全世代の人々に学びの扉を開く
- 【学びの場の提供・情報提供の充実】

つながる

～学びを通じた交流の推進～

- 地域のネットワーク化・交流の推進
- 【学ぶもの同士や世代間の交流を推進する】
- 【学びの成果を生かす仕組みづくり】

ささえる

～生涯学習（まなび・であい・つながる場）の拠点づくり～

- 地域住民がいつでも立ち寄れる居場所づくり・交流の場づくり
- 【様々な世代が立ち寄ることのできる居場所・拠点づくり】

(3) 施策の展開

○まなぶ

《目標》

全ての世代が学ぶことのできる学びの機会を提供する。

《現状と課題》

公民館の利用者の多くが高齢者となっており、若者等の利用者が少ない。家庭や地域が連携し、課題を解決する力を育成する学習の場を公民館等で提供することで、地域住民や多世代の利用者の増加を図る必要がある。

また、公民館等を利用したことのない理由として、「利用・予約方法がわからない」「自分が公民館を利用できるのかわからない」という声があり、利用・予約方法等の周知を図ることも必要である。

《施策の方向性》

【学びの場の提供・情報提供の充実】

・「誰一人として取り残さない」社会を実現していくためにも、誰もが様々な機会に、様々な場所において必要な機会に学ぶことができるよう学習社会を提供する。また、その成果を個人の生活だけでなく、地域での活動等に生かすことのできる生涯学習社会の実現を目指す。

・子どもや家庭を取り巻く様々な問題の解決には、地域の中での助け合いや、地域住民のつながりがあることが重要。現在、地域社会の変化などにより子育て世帯が相談できる場所や人がいないため、孤立してしまう場合がある。地域での家庭教育支援の取組をすすめて、安心して子育てができる地域のつながりが創出されることを目指す。

・地域課題を解決するには、住民が地域に関心を持ち、地域のためと思う人を1人でも多く増やす取組が必要。そのため、自分たちが暮らす地域について知識を深め、誇りや愛着を持つように「郷土愛を育む学習」を推進する。

《施策》

・多様なニーズに応じた学習機会の提供
・公民館を核とした地域課題解決のための仕組みづくり
・家庭教育の推進
・郷土愛を育む学習の推進

事業展開

・公民館における学習活動
・奈良ひとまち大学
・家庭教育支援事業
・子育てスポット事業
・子育てスポットすくすく広場事業
・文化財普及啓発事業
・文化財施設における学習事業

《参加者・関係者の声》

⇒公民館は子ども・生徒・学生・社会人の活動や心の支援になっており、生涯学び続け、生きる希望を与えてくれる存在だと思う。(公民館利用者)

⇒自分の悩みをわかり合える人の集まりで、気持ちもあたたかくなり、次に何かつながりそうだと感じた。(家庭教育支援事業の参加者)

⇒身近にある「奈良の良さ」、知らなかった「奈良の良さ」を学ぶことができ、住んでいるまちをより好きになることができる。(奈良ひとまち大学参加者)

〇つながる

《目標》

地域の課題を地域のネットワークを通じて解決できる仕組みづくりを目指す。

《現状と課題》

社会環境は急速に変化し、地域社会における人と人とのつながりが希薄化している。その中で、地域の教育力を再生し、地域の中で住民同士のつながりを生み出す仕組みづくりが必要となる。また、近年の社会的要因により、生きづらさを感じている若者が増加しており、青年教育の充実や若者支援の取組を行う必要がある。

現状、生涯学習を通して身に付けた知識や技能を「自分の人生をより豊かにする」ために生かされている割合が多くなっている傾向があるが、住民主体のまちづくりを進めるため、地域の人材を育成するとともに学習成果を地域社会で生かせる環境づくりを推進する必要がある。

《施策の方向性》

【学ぶもの同士や世代間の交流を推進する】

・地域と学校の連携・協働を進め、子どもたちの教育活動の充実を図るとともに、地域の教育力の再生と地域コミュニティの活性化を進めるために、子どもたちを守り育てる体制づくりを進める。

・学習を通じて学ぶもの同士が交流できるような機会を提供する。また、地域の中でのつながりを生み出し、地域の中で住民が連携・協働し、地域の課題について解決につながるような地域の教育力をいかし、地域のネットワークを構築していく。

【学びの成果を生かす仕組みづくり】

・成果を個人の知識や教養にとどめるだけでなく、地域社会の様々な場面で発揮し還元する仕組みをつくる。学んだ成果により、地域の活性化を図るとともに、個人の学習意欲の推進を図る。

《施策》

・地域と学校が連携・協働する取組の推進
・学びの成果を生かせる仕組みづくり

事業展開

・公民館における学習活動
・地域で決める学校予算事業
・放課後子ども教室推進事業
・地域自治組織設立推進事業
・ボランティアポイント事業
・ボランティアセンター事業
・ボランティアインフォメーションセンター事業

《参加者・関係者の声》

⇒子どもたちが夢中になって取り組み、「できた！」と喜ぶ姿をみるとやりがいを感じる。子どもたちと触れ合って活動をしているので、子どもの反応が直接返ってくる。準備や調整の苦労も吹き飛ぶくらいの元気をもらっている。（放課後子ども教室事業 コーディネーター）

⇒園児と中学生ボランティア部の交流を実施し、園児は喜び、生徒たちは園児のために役に立った、人のために尽くしたという自信になったと感じる。（地域で決める学校予算事業 学校園担当者）

○ささえる

《目標》

社会教育施設として、誰もが気軽に立ち寄れる場所にすることで「まなび・であい・つながる場」をつくる。

《現状と課題》

社会教育施設の利用者が固定化傾向にあることから、誰もが気軽に立ち寄り、学ぶ

ことができるよう、施設運営について見直していく必要がある。また、学校や家庭で抱える様々な問題に対応し、子どもたちが社会性や人との付き合い方などを学ぶ機会を提供したり、子どもの居場所づくりをしたりすることが求められる。なお、子どもや青少年が豊かな心を持ち、健全に成長するように、読書習慣の育成と読書環境の整備も求められる。

コロナ禍の中で自然に触れる体験が見直されており、野外での体験活動を通じた学びの場の提供と環境整備が求められる。

《施策の方向性》

【様々な世代が立ち寄ることのできる居場所・拠点づくり】

- ・公民館が市民の生涯学習の拠点となり、誰もが自由に学ぶことができるように、ＩＣ環境を整備し、公民館同士の交流や、オンライン講座の開催等、新しい公民館活動を推進し、全ての市民が共に学ぶことができる場を提供し、誰もが地域社会の一員として社会とつながることができる機会の充実を図る。
- ・図書館において、多様化する情報、屁化する住民ニーズに対応するため、誰もが図書館を快適に利用できるよう、資料の充実やＩＴ技術を活用し、より良いサービスを提供する。
- ・青少年の健全育成を目的に青少年野外体験施設において、施設情報の広報を検討し、より多くの市民に使用してもらうことで、自然環境の中での体験活動の機会を提供する。

《施策》

- ・学習環境の整備、学習情報の発信
- ・幅広い世代が利用できる拠点づくり
- ・図書館の充実

事業展開

- ・公民館運営管理事業
- ・公民館窓口での各種学習相談
- ・図書館運営事業
- ・青少年野外体験施設の運営管理事業
- ・くろかみやま自然塾

《参加者・関係者の声》

⇒公民館は、昔は高齢者が集うところというイメージだったが、今は赤ちゃんからシニアまで幅広く集まり学習する場というイメージ変わった。（公民館利用者）

⇒子どもにとっては自然の中の学び遊ぶこと、知らない子どもたちや大人と触れ合うことはとても貴重な経験になった。（くろかみやま自然塾参加者）

2. 奈良市の世界遺産学習について

令和3年3月に第2期「奈良市教育振興基本計画」を策定し、時代の変化に対応しながら、本市の新たな課題を克服するために、向こう5年間の基本方針と主な施策を示した。

計画では、「生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り開く人間の育成」を目標に掲げ、「奈良らしい教育の推進」として世界遺産学習を位置づけ、全市立学校で世界遺産学習に取り組んでいる。

世界遺産学習は、先人たちが守り、受け継いできた世界遺産をはじめとする文化財や地域の遺産、自然環境等について学ぶことを通して、それらを尊重する態度や地域を誇りに思う心情を養うことを目的としている。

(1) 教育目標

●奈良市の目指す教育

生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り開く人間の育成

目指す子ども像

みずから学ぶ子

とことん学ぶ子

つながり学ぶ子

●奈良らしい教育の推進

・世界遺産学習を通して地域への愛着を育み、子どもたちのアイデンティティの確立を目指す。また、持続可能な社会の担い手として、地域やグローバルな社会で活躍する人材を育成する。

【世界遺産学習】

・地域の文化財や伝統文化、自然環境等について学び、それらを守り受け継いできた人々の思いや営みに触れる。

・ICTを活用し、学習したことや自らの考えをまとめ発表する力や、他の地域や海外に住む子どもたちとのオンライン交流を通して、考えたことを行動に移す力等の育成を図る。

・地域について深く学ぶことを通して、教科、領域を横断した知識や技能を融合し、自ら課題を見つけ論理的思考により解決することができる子どもを育成する。

(2) 教育委員会での取組

●世界遺産学習現地学習

学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を意識し、豊かな文化遺産を通して、「地域に対する誇りや地域を大切にしている心情を育み、持続可能な社会の担い手となる子どもの育成」に向け、地域と連携・協働した世界遺産学習を展開している。小学校5年生を対象に実施している世界遺産学習現地学習では、副読本「奈良大好き世界遺産学習」を配布し事前事後学習に活用している。当日は、ボランティアガイドの説明を聞きながら、本物に触れ、また、それらを守り受け継いでいる人々の思いを知り、主体的に学びを行動する機会としている。このような活動は、奈良で学び育つ子どもたちのアイデンティティの確立につながる取組である。

現地学習で取り組んだ子どもたちは「仏像が本当に生きているみたいだ」「大切なことは守り伝えていくことだと思った」等、本物に触れることを通して、学習を深めるこ

とができる。また、事後学習では、ＩＣＴを活用し、学習したことを自らの考えをスライド等でまとめ、発表する活動につなげている学校もある。

●世界遺産学習リレー講座

奈良市の世界遺産学習を推進していくために、教職員を対象に「世界遺産学習リレー講座」を年に複数回開催している。

世界遺産学習についての学びを「理論」「実践」「学校運営」に分け、世界遺産学習について経験豊かな教職員によって、リレーのようにバトンをつないでいくことで、世界遺産学習の理解や実践力の向上を目指している。参加者は「世界遺産学習を通して、持続可能な社会の担い手を育成することの大切さを改めて感じた」「まず教員が世界遺産に触れ学ぶことが必要だと思った」など、自身の実践を振り返る機会となった。

●奈良国立博物館によるオンライン遠隔授業

１人１台整備されているタブレット端末やＩＣＴ環境の整備により、市立小学校２校において、奈良国立博物館によるオンライン遠隔授業を実施。奈良国立博物館と各学級がオンラインでつながり、仏像館からライブ中継された貴重な仏像の数々が、手元のタブレット端末に大きく映し出され、子どもたちは普段見ることが難しい仏像の表情の細部まで目の前の画面で見ることができた。

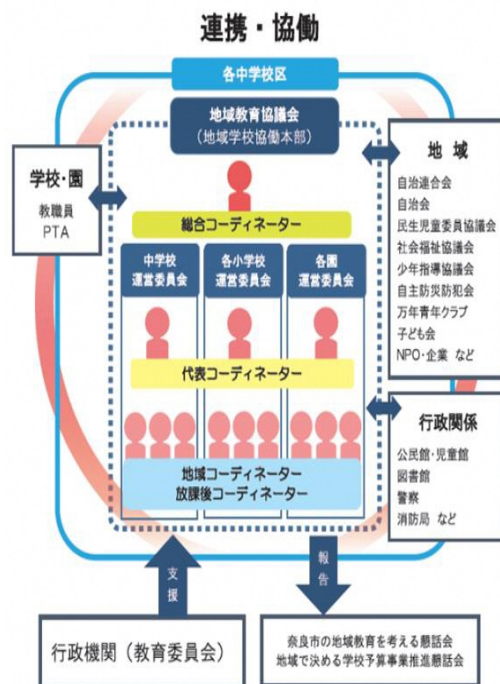
子どもたちからは「現地に行くことはできないけど、本当に行きたくなるくらい楽しかった」「博物館の仏像がオンラインで見れるとは思わなかった。博物館に行って実物を見てみたい」などの感想が寄せられ、仏像について知り、文化財を未来に伝えるために自分たちに何ができるかについて考えるきっかけとなった。

3. 奈良市地域教育推進体制について

奈良市では、学校・家庭・地域で子どもたちを育てることを目指し、地域学校連携共同活動を推進し、コーディネーターを中心に、地域人材や環境を活かした教育活動を企画・運営している。コーディネーターは、地域教育協議会、運営委員会にそれぞれに配置され、主に学校内外の連絡・調整及びネットワークの構築、人材発掘、事業の企画・立案・運営などの役割を担っている。

コーディネーターそれぞれが、チームワーク良く活動できるよう組織体制（右図参照）が構築され、令和4年度は、約400名のコーディネーターが、学校と地域をつなぎ、奈良市地域教育推進事業の中心となって活動している。

コーディネーターの配置	コーディネーターの主な役割
総合コーディネーター (地域教育協議会に1名)	学校・園・地域・行政・会長・コーディネーター・ボランティアと連絡調整しながら、地域学校連携活動を行い、また、地域教育協議会全体の総括を図る。
代表コーディネーター (運営委員会に1名)	学校・園・地域・ボランティアと連絡調整しながら、地域学校連携活動を行い、また運営委員会の総括を図る。
地域コーディネーター (地域教育協議会・運営委員会に複数名)	学校・園・地域・ボランティアと連絡調整しながら、地域学校連携活動を行う。小学校で、放課後子ども教室の総合的な調整を行う地域コーディネーターもいる。



4. 質疑応答

Q. 副読本の内容は学校の授業で使用しているのか？

A. その通り。現地で学ぶ前の事前学習や、現地で改めて資料として確認している。

小学校5年生だけでなく、小学校6年生や中学校でも使用している実績がある。

Q. 副読本の使用については、教職員が選択できるのか？

A. 副読本自体は同じものになるが、どの文化資産を使うかや、授業の進め方は各学校の教職員次第なので、選択できるという考えになる。

Q. 郷土愛を育む学習はどのようなことをされているか？

A. 奈良市の職員であれば文化財課や埋蔵センターの職員が学校の職員と連携し、副読本や各施設の見学などに取り組んでいる。

Q. 地域住民は子どもたちへの郷土愛を育む学習にどのように関わっているのか？

A. 郷土愛を育む学習に、地域住民を巻き込んでというところまでは見立てておらず、実施しているわけではない。

Q. 公民館は高齢者が集う場所というイメージから、若い世代にも使用してもらえようとするための工夫は？

A. 奈良ひとまち大学の実施。奈良市をキャンパスとして、奈良市のことを大学生が講師として学習する機会を設けた。

Q. いろいろな地域で実施しているのか？

A. 全ての講師が大学生というわけではないが、奈良市に住み、奈良市で起業した方を講師に招くなど公民館の職員が創意工夫し、実施している。

Q. 地域で決める学校予算事業において、それぞれのコーディネーターを中心に議論して予算要求となると、相当な期間がかかるように思うが、いつ頃から検討されているのか？

A. 例年、１２月までに試算・試算をしていただいている。新規の事業の場合は、各学校の夏休みまでを目途に検討いただいている。

Q. コーディネーターのなり手として、移住民が多いので地域のことに根付いていない中でのコーディネーターの確保で苦労した点は？

A. 以前から、回覧板による周知を行っていたが、単に募集するだけでは人材の確保には至らなかった。そのため、近年、回覧板での周知の際に、コーディネーター業務を細分化し、具体的な内容を記載したことで、自らの得意分野を活かして活動できるのではないかという行動に移すきっかけとなり、結果的にコーディネーターの確保につながった。

Q. コーディネーター同士で情報共有をしているか？

A. 「交流の集い」というイベントで意見交換いただいている。

⇒コーディネーター１００人と教職員１００人程度

5. 奈良市史料保存館を見学

奈良市の歴史や文化にまつわる史料が複数展示されており、奈良市の歴史のあゆみや、奈良市での教育環境が整備されるまでの歴史について学ぶことができた。

奈良市史料保存館では、技術革新によるＩＣＴの推進に伴い、「史料保存館デジタルギャラリー」を進めておられ、歴史や文化にまつわる史料を電子化し、ホームページへ掲載することで、現地に出向かなくても、電子媒体で史料を閲覧できるよう、整備を進めているとのこと。



6. 所感

奈良市は、草津市と比較して、人口や文化財数をはるかに多く、古くからの歴史や文化が残る街並みと新興住宅地の両面を併せ持った地域です。

今回、奈良市の特徴である、歴史や文化を活用した教育を実践されている現場の声をお伺いしましたが、本市にも共通した課題である、地域コーディネーターや語り部などの担

い手の確保について、創意工夫され、課題解決に向けて取り組んでおられることを知ることができました。特に、地域コーディネーターの確保においては、単に募集するだけでなく、コーディネーター業務の各事業の細分化を行い、具体的な内容を可視化して地域住民に協力要請を募ったことで、それぞれの内容の中で、自身の得意分野を活かすことができるのではないかという、行動に移す動機付けになり、結果的に協力者が増えたということが印象深いものでした。また、奈良ひとまち大学のように、大学と連携して、大学生がコーディネーターとなり、地域住民に奈良市の良さを学ぶ機会をつくるなど、人材確保の手法においては、大変勉強になるものでした。

質疑応答においても活発な意見交換ができ、今後の所管事務調査を進める上で、とても参考になる大変有意義な視察研修となりましたことをご報告します。

奈良市での成功事例や様々な工夫を、草津市の取組状況に照らしながら、今後の調査・研究を進めてまいりたいと思います。



文責 文教厚生常任委員会
委員長 小野 元嗣